



岡田

学校教育目標

10年間を見通した確かな学力と
豊かな人間性の育成

目指す子ども

ふるさと加佐を愛し 夢 未来に向かって歩み続ける子ども
～笑顔で いきき 自分から～

平成31年3月20日

舞鶴市立岡田小学校
学校だより No.14

<http://okada-es.maizuru.ed.jp>

平成30年度の終わりを迎えて…

グラウンドの桜が花芽を膨らませたかと思うと、冷たい風が吹く寒の戻り…。安定しない気候に体調を崩しがちな子も見られますが、「暑さ寒さも彼岸まで…」と言います。卒業式の時季を迎え、暖かな春の訪れはもう目の前に来ています。本年度は開校8年目を迎えさらなる充実を目指し、各学年の学習内容ははじめ、その時々身に付けておきたい力を育てるために、教育活動を進めてまいりました。3月20日(水)には、平成30年度卒業証書授与式を挙



【卒業式練習の様子：卒業生と在校生】

行し、13名が巣立ちの時を迎えます。6年生の「最後の授業」をみんなの手で完成させようと、卒業生も在校生も、全力で卒業式の練習に取り組みました。また、3月22日(金)には、卒業生を除く71名が、各学年の課程を修了し、次の学年へと進級します。



本年度は1年間を通して、一人一人の目標に向かって全力でがんばる子どもたちの姿がいたる所で見られました。4月には、学校に慣れない1年生にやさしく接し、面倒を見る高学年や、一緒になって遊んでくれるお兄さんお姉さんがたくさんいて、全校児童が兄弟姉妹のように過ごす姿が印象的でした。異年齢で活動することは、簡単なことではありませんが、全校児童が兄弟姉妹のように関われる本校のよさが、しっかりと活かされた1年間でした。

1学期の始業式で、「誰か一人でも欠けてしまつては、本当の岡田小学校にはならない」という話をしました。長い1年間ですから、体調が悪く欠席することもあります。家の用事で欠席することもあります。また、悲しいことや辛いことがあつて登校することができない場合だってあるかも知れません。1年間を通して学校生活を何の心配もなく送ることができればよいのですが、そんなうまくいかないのが現実です。だから、子どもたち84名が全員揃うことは実はとても難しいことでもあります。本年度の岡田小学校の子ども84人が、一人の欠席もなく全員元気に登校した日は59日ありました。これは全登校日の約30%にもなります。このことは、一人一人が充実した学校生活を送るために、自分の目標にむかつて一生懸命努力し、がんばった成果ではないかと思ひます。学校として、健康であること、安全であること、そして、どの子にとつても学校生活が楽しい場所であることを目指し、教育活動に取り組みましたが、不十分な点がたくさんあつたと思ひます。平成30年度の修了式を迎えるにあたり、今年1年を振り返り、できたこととできなかったことを反省しつつ、次年度へつなげたいと思ひます。



『10年間を見通した確かな学力と豊かな人間性の育成～ふるさとの やさしさ かしこさたくわえて 志高く生きる 岡田の子～』を教育目標に据え、目指す子ども像として掲げた、“笑顔で いきいき 自分から”の姿を求めて、取組を進めてきました。保護者の皆様には、子どもたちが元気いっぱい学校生活を送れるよう、「心と体」をしっかりと支えていただきました。また、地域の皆様には、子どもたちの見守りはもとより、ふるさと岡田のよさを学ぶ学習や野菜の栽培活動など、豊かな体験を通してのびのびと育つ手助けをしていただきました。岡田子育て支援協議会の皆様にも、1年間、子どもたちが心身ともに健やかに成長することを願ひ、「わくわく広場」「花いっぱい運動」「登校指導」等の事業を行つていただき、ありがとうございました。

本年度の学校教育に対する保護者や地域の皆様の思いを大切に、子どもたちが「今日も楽しかった。明日もまた学校へ来たい。」と思える学校づくりを目指したいと思ひます。1年間お世話になりましたことに、厚く御礼を申し上げます。



加佐校区小中一貫教育
10年を見通して

3月15日には、加佐中学校の卒業式がありました。遅く成長した卒業生の姿から、中学校で学んだことを胸に刻み、自分の未来を見据えながら、厳しい世界へ踏み出す勇気と覚悟を感じました。中学校での育ちを支える力は、小学校で育まれるものです。来年度も保小中が一体となり、子どもたちの豊かな未来を願つて実践を積み上げたいと思ひます。

校長 波多野 暢 教職員一同